

19 年度 Q3 決算説明会 質疑応答要約

Q) 産業機器の受注の状況はどうか？ IT 関連の引き合いに回復の兆しはないか？

A) 産業機器は下期からの回復を見込んでいたが、足元の状況はかなり厳しい状況が続いており、受注について、改善の兆しは感じられていない。5 G 含め、IT 関連の受注についても現時点では具体的なものはない。

Q) P&S 事業での国内売上について。消費税の増税後の反動減はどの程度あったのか？

A) 消費税増税後のブラザー販売の売上は 10%程度減っているが、P&S 事業に占める国内の割合がもともと小さいため、事業全体に対する影響はそれほど出ていない。

Q) インクは、販売台数ベースでの伸び率はプラスだが、売上伸び率はマイナスとなっている。

インクタンクモデルは一部の地域向けに値下げ対応しているという説明であったが、ASP の下落は一過性のものなのか？

A) インクタンクモデルの一部の地域に対する値下げ対応は行っているのだが、ASP は基本的に下がっていない。ASP が下がったように見えるのは、日本を中心に、昨年まで発売していた単価の高い高速インクジェット機の発売を 2019 年度よりやめたことによる一過性の要因だと考えていただいてよい。

Q) 通期の見通しは変更しないのか。P&S 事業の通期の利益見通しは弱いのではないか？

A) Q3 までの業績から見ると、P&S については保守的に見える部分があるかもしれないが、中国経済減速による需要の低迷が長期化しており、マシナリー事業についての見通しは厳しい部分がある。加えて、米中貿易摩擦や、コロナウイルスによる影響など、不確実なリスク要因もあるため、通期の見通しは変更しない。

Q) Q3 の事業セグメント利益は、社内計画と比べてどうだったのか？

A) 社内計画に対して、売上は全社トータルで予定どおり。事業セグメント利益は全社トータルで約 20 億円の上振れ。ほぼ P&S によるもの。

以上